

計画策定にかかるワークショップ結果（概要）

1. ワークショップの目的

ふじみ野市文化・スポーツ条例の基本理念には、市民の豊かな自己実現及び活力のある地域社会の実現や文化活動を通して潤いのある豊かな生活を営むことができるような環境の整備、市民及び団体の連携や交流を図り、協働のまちづくりに資するよう努めることが掲げられています。

ふじみ野市文化振興計画の策定にあたっては、市民との協働の観点から、市の文化芸術に関わる市民や団体等と、ふじみ野市の文化政策の方向性やビジョンについて、また、市内の中高生を中心に将来のふじみ野市を担う若い世代と、ふじみ野市の文化政策の取組に関する具体的なアイデアについて、ワークショップの手法を用いた意見収集を行いました。

2. 開催の概要

期間	対象	参加者
6月19日（日）	中高大学生対象ワークショップ	学生41名、教諭・委員等7名
6月26日（日）	一般市民対象ワークショップ	市民12名、委員3名
6月27日（月）	公民館利用団体代表者対象ワークショップ	代表者7名、委員2名

3. ワークショップの結果概要

（1）中高大学生対象ワークショップ

本ワークショップは、文化・スポーツに関する活動を行っている市内の中学生と高校生、文京学院大学及び大東文化大学の大学生に参加を依頼し、「ふじみ野市を文化・スポーツの力で魅力的なまちにするために、あったらいいなと思うことややりたいこと」について話し合いました。

文化の分野では、地域の活性化や世代間交流といった社会問題から、学生同士のつながりや自らの活動機会の充実を求めた取組、国際交流まで、様々な視点による議論が行われました。

具体的には、各グループ共通で出された祭りや花火大会などの大きなイベント、音楽関係の発表機会や施設の充実、食や昔遊びなどを通じた高齢者等との交流など、幅広いアイデアが出されました。

また、学校の部活動だけではもの足りず、他校との交流や大人と一緒に活動したいという希望も出されました。

また、ふじみん商店街やふじみんピックといったネーミングから、ふじみ野市PR大使『ふじみん』の認知度の高さもうかがえました。

（2）一般市民対象ワークショップ

本ワークショップは、文化・スポーツに関する活動を行っている市民を対象に実施し、参加者の活動上の課題や本市に住んでいて感じることを踏まえて、ふじみ野市の文化振興の方向性やビジョン、施策について検討しました。

参加者の活動上の課題としては、後継者の育成や活動の成果を発表する場などが挙げられましたが、全体的にそれぞれの活動を通して、ふじみ野市全体に関する問題提起がされました。

○「ふじみ野」の発信～歴史・伝統の尊重と文化の創造、調査及び情報の提供～

ふじみ野市は住みやすいまちだが、これと言って特徴がなく、帰ってくるだけの場所、通過点になっているという現状が挙げられました。

その中で、ほうきづくりや伝統芸能など、昔から続くものを宝として捉え、ふじみ野らしさを築いていくことや、人口増や利便性を魅力として「ふじみ野」という名を売り出すことなどが、今後の方向性として議論されました。

また、こうした魅力を PR するためのイベントや PR 方法などが検討課題として挙げられています。

○若い力をカルティベートする（耕す）～人材の育成及び地域団体の支援～

ふじみ野市の文化振興に向けては、これからの市民活動を担う人材の育成や、歴史や文化を伝承していくための後継者の育成が重要との意見が挙がっています。

特に、日常的な住民同士のつながりの希薄化は活動団体にも影響し、参加者の固定化や横のつながりが広がらないという問題やモラルの低下という問題にもつながっているのではないかという問題提起がされました。このような現状から市民活動をつなぐコーディネーターが必要ではないかという意見が挙がりました。

また、若い世代の文化活動への参加の意欲が低く、活動の担い手や団体の高齢化を進行させている要因にもなっているという意見がありました。

(3) 公民館利用団体代表者対象ワークショップ

本ワークショップは、ふじみ野市の公民館利用団体の代表者を対象に実施し、活動上の課題を踏まえて、今後のふじみ野市の文化振興の方向性やビジョン、施策について検討しました。

主な内容としては、公民館利用者の高齢化の問題、公民館の施設利用に関する内容や活用方法を中心に、公民館が目指すべき方向性についての意見が出されました。

○地域と一体となった公民館～環境の整備と機会の充実～

まず、地域の現状として、子育てで苦しんでいる人が多い、日常的なつながりが少ない、若い世代と高齢者の交流がない、昼間人口が少ない、文化や市のイベントに関心がないといったことが挙げられました。

公民館は文化交流の拠点として、どのように新たな参加者を巻き込んでいくか、どのように世代間交流を図っていくかが課題となっていますが、良いアイデアが出ないという現状があるようです。

また、小学校への出前授業や公民館事業への協力などの地域貢献がキーワードとして挙げられました。

また、公民館利用の中心となっている高齢者は、公民館の利用システムへの対応が困難であるという意見が多く、子どもたちの利用も含め、利用のしやすさが課題となっています。